

今週のメニュー

■トピックス

◇四国（高松）セミナーを開催

■随想

◇レソト王国旅行記（4）－レソト人－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇四国（高松）セミナーを開催

3月15日、JR高松駅前にあるサンポートホール高松において「住宅性能が低い住宅と病気の因果関係が解き明かされるか？」と題したセミナーを(株)日本住宅新聞社主催、弊会の協賛により開催いたしましたので概要をご紹介します。

今回のセミナーを四国（香川県）で開催した背景をご説明します。

2013年と少し前の統計になりますが、高血圧や脳梗塞など温度（低温）と大きな関わりがあると考えられている疾患で亡くなられた方が最も多かったのが香川県、2位が兵庫県、以下滋賀県、東京、和歌山と続くようで、我々が一般に認識している北海道や東北などの寒冷地は一つも入ってきていません。ご承知かも知れませんが寒冷地の住宅は寒さに対する備えをしているので家の中は東京等の住宅よりもはるかに暖かく快適なのだそうです。それに比べ東京、名古屋、大阪といった大都市圏や関西以西は温暖地という認識が一般的で、住宅も寒さに対する備えが十分でないことが大きな要因のようです。窓に関しても同様で、樹脂サッシは寒冷地のもので温暖地では不要とお考えの方も多くおられますが、実は温暖地と言えども住宅の温熱環境を考えて頂く必要があることから当地での開催となりました。

今回のセミナーでは近畿大学建築学部の岩前篤教授より「健康な暮らしと健康な住まい」について、高知工科大学システム工学科の田島昌樹准教授より「四国の住宅の省エネルギー性能」についてご講演を頂きました。岩前教授からは「世の中には多くのリスクが存在しているが、住まいにおける温熱（高温/低温）環境の人の健康に及ぼす影響は非常に大きく、特に低温の健康リスクは循環器疾患をはじめ多くの疾患と関連していることを示唆する数多くのデータがあり、温熱環境の改善により健康改善がなされた統計的データもある。健康長寿のためには住宅の温熱環境の改善（断熱改修）が是非とも必要である」とのご講演を頂きました。



講演

田島先生からは、「四国は省エネ基準 4 地域から 7 地域までがあり香川県は東京や大阪と同じ 6 地域、日本人の 90% が 6 地域に住んでいる。(4 地域：準寒冷地、5、6 地域：温暖地、7 地域：蒸暑地)。四国における近年の省エネ住宅の設計データ (5, 6, 7 地域) に基づき省エネ性能を検証した結果、省エネ技術や省エネ性能は年々向上していることが判明。一方、既存住宅は無断熱/アルミ枠単板硝子が多く、これら住宅の断熱性能の向上が必要。そこそこの断熱レベルに改修するとすれば費用もかかるが、国や地方行政の補助金が利用できる。是非とも省エネの観点からも断熱改修を進めるべき」とのご講演を頂きました。



パネルディスカッション

パネルディスカッションでは住宅の断熱に必須となる開口部に関して YKK AP より樹脂内窓、エクセルシャノンより樹脂窓の紹介が行われ、引き続いて省エネ基準のレベルについて、既築住宅の改修方法について、世界の住宅省エネレベルとの比較について等、会場からの質問も交え活発な議論となりました。

今回のセミナーは香川県での開催でしたが、徳島県、高知県、愛媛県、兵庫県、大阪、福岡県からのご参加を頂き約 50 名のセミナーとなりました。

日本は南北に長く様々な気候の中で人々は暮らしをしています。それぞれの地域に必要な家の断熱度合いは異なるものの、その家で暮らす人々が健康であることが最も重要なことであり、今回のセミナーが温暖地で暮らす皆様の家と人の健康を考える機会となって頂ければ幸いです。

■ 随想

◇レソト王国旅行記 (4) -レソト人-

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

季節的に、9、10 月は「春」ということになりませんが、山岳地帯なので朝晩は結構冷えるため、しっかり着込んでいます。夏でも Kobo と呼ばれる毛布をまとるのがお約束らしく、レソト王国以外のアフリカの人にレソト人のイメージを聞くと、いつも毛布に包まっている人という答えが返ってきます。この Kobo、地方ごとに色の特徴があるので、地元の人が見ると、あの人は〇〇という所の人だと分かるそうです。さすがに、首都にいる人たちはまとっていませんが、少し郊外に出ると、多くの人がまとっています。実際には毎日、まとものなので、かなり汚れており、ほとんど真っ黒というものも多いですが。。。



Basotho Hat をかぶり、Kobo と呼ばれる毛布をまとっています。

(この写真はインターネット上から取得したものです)

農業以外では牧畜も盛んで、牛や羊などを追っている牛飼い、羊飼いの姿をよく見ます。このような人は、ほぼ全員が Kobo をまとい、ムチとして使う長い棒を持っています。長い棒は牛や羊を一つにまとめるために使っていますが、道路を横断する際には横断しようとしている牛や羊に石を投げ、驚かせて、出来るだけ早く道路を横断させようとしています。

レンタカーで走行中、牛や羊が道路を横断しているところに出くわすと、一生懸命石を投げて、早く横断させようとしてくれますが、その石の数が半端じゃありません。まるで運動会の玉入れのよう。あそこまで石を投げて急がせなくてもいいんですけど (^_^;

鉄道がなく、移動手段は車が主体ですが、郊外に住んでいる人は、経済的な理由もあり、ほとんど車（バスを含む）を利用せず、ひたすら歩く。歩くといっても、車でもきつい、アップダウンのある山道をひたすら歩きます。ちょっと大きな、或は重い荷物のある人は、一輪車に荷物を載せて歩いています。まさか、こんな集落から離れた場所、歩いている人はいないだろうと思って運転していても、必ず歩いている人がいます。

大人だけでなく、子どもも歩いています。裕福な家は別として、子どもはすぐに大きくなるという理由で、靴を買ってもらえないことが多く、ほとんどが裸足です。足の裏を見せてもらったら、硬い！ 革靴の底より硬い！ 人間の足の裏、あそこまで環境に適応するとは思いませんでした。

レソト人は非常に人懐っこく、すぐに友達になれます (^_^)v
政治や宗教による禁止事項もないため、話し始めるとかなり本音の話を聞くことができます。また、礼儀正しく、お人好しです。音楽に合わせて踊りだすというのはアフリカの人たち共通の特徴ですが、あまり大きな声を出すこともなく、非常に静かな人たちでもあります。ただ、普段話す声もかなり小さく、小声でボソボソ。英語も独特の訛りがあるので、ヒアリングはちょっと大変かもしれません。

(続く)

次回は、(5) -Photo Clinic- です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

今年の桜は、私にとって特別な桜でした。東京では3月21日に開花宣言がなされたものの、寒気団が居座ったため桜の開花もゆっくりで、3月末の今を待っていたかのように、ようやく今週見ごろを迎えました。事務所の近くでも、桜通りや坂本町公園の桜、隅田川沿いの桜などたくさん楽しめます。桜と言えば、別れと出会いのシーズンでもあります。このメルマガの編集に携わった



(事務所ビル近くの桜)

私もこの編集後記を最後に卒業です。思い起こせば、約9年間、メルマガでお届けする記事に触れたり、そのときの話題、季節の変化などを感じるままに書き綴ってきたような気がします。継続は力なりと言われますが、半分「仕事」と思いながらの担当でしたが、「書く楽しみ」的なものも感じていたような気がします。来週からは、新しい編集員が加わりますので、これからの編集後記も楽しみにしていただきたいと思います。(HI)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
